



ポート セキュリティの設定

この章では、Catalyst 4500 シリーズ スイッチ上で、ポート セキュリティを設定する方法について説明します。Catalyst 4500 シリーズ スイッチのポート セキュリティの概要と、アクセス、音声、トランク、プライベート VLAN など各種ポートの設定について説明します。

この章の内容は、次のとおりです。

- 「コマンドリスト」 (P.33-1)
- 「ポート セキュリティの概要」 (P.33-3)
- 「アクセス ポート上のポート セキュリティ」 (P.33-7)
- 「プライベート VLAN ポートのポート セキュリティ」 (P.33-13)
- 「トランク ポートのポート セキュリティ」 (P.33-16)
- 「音声ポート上のポート セキュリティ」 (P.33-21)
- 「ポート セキュリティ設定の表示」 (P.33-27)
- 「他の機能/環境でのポート セキュリティの設定」 (P.33-30)
- 「ポート セキュリティの注意事項および制約事項」 (P.33-32)

ポート セキュリティのトラブルシューティングについては、「[Troubleshooting Port Security](#)」 (P.49-31) を参照してください。



(注)

この章で使用するスイッチ コマンドの構文および使用方法の詳細については、『*Catalyst 4500 Series Switch Cisco IOS Command Reference*』および次の URL の関連マニュアルを参照してください。

<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/software/ios124/124cr/index.htm>

コマンド リスト

次の表に、主にポート セキュリティで共通に使用されるコマンドを示します。

コマンド	目的	参照先
<code>errdisable recovery cause psecure-violation</code>	セキュア ポートの <code>errdisable</code> ステートを解除します。	「違反処理」 (P.33-6)
<code>errdisable recovery interval</code>	指定したエラー ディセーブル理由から回復する時間をカスタマイズします。	「違反処理」 (P.33-6)

■ コマンドリスト

コマンド	目的	参照先
port-security mac-address	それぞれの VLAN にセキュアなすべての MAC アドレスを設定します。	「セキュア MAC アドレス」(P.33-3)
port-security maximum	インターフェイスに MAC アドレスの最大数を設定します。	「アクセス ポート上のポートセキュリティの設定」(P.33-7)
private-vlan association add	セカンダリ VLAN とプライマリ VLAN のアソシエーションを作成します。	「独立プライベート VLAN ホストポートでのポートセキュリティの例」(P.33-15)
private-vlan isolated	VLAN をプライベート VLAN として指定します。	「独立プライベート VLAN ホストポートでのポートセキュリティの設定」(P.33-14)
private-vlan primary	VLAN をプライマリ プライベート VLAN として指定します。	「独立プライベート VLAN ホストポートでのポートセキュリティの設定」(P.33-14)
switchport mode private-vlan host	有効なプライベート VLAN トランクのアソシエーションを持つポートが、アクティブホストのプライベート VLAN トランクポートになるように指定します。	「独立プライベート VLAN ホストポートでのポートセキュリティの設定」(P.33-14)
switchport private-vlan host-association	独立ホストポート上でホストアソシエーションを定義します。	「独立プライベート VLAN ホストポートでのポートセキュリティの設定」(P.33-14)
switchport private-vlan mapping	混合モードポートに対してプライベート VLAN を定義します。	「独立プライベート VLAN ホストポートでのポートセキュリティの設定」(P.33-14)
switchport port-security	ポートセキュリティをイネーブルにします。	「アクセスポート上のポートセキュリティの設定」(P.33-7)
switchport port-security aging static	MAC アドレスのスタティックエージングを設定します。	「セキュア MAC アドレスのエージング」(P.33-5)
switchport port-security aging time	ポートに対してエージングタイムを指定します。	「例 3：エージングタイマーの設定」(P.33-11)
switchport port-security limit rate invalid-source-mac	不良パケットに対してレート制限を設定します。	「例 7：不良パケットに対するレート制限の設定」(P.33-13)
switchport port-security mac-address	インターフェイスに対してセキュア MAC アドレスを設定します。	「例 5：セキュア MAC アドレスの設定」(P.33-11)
switchport port-security mac-address <mac_address> sticky	インターフェイスに対してスティッキ MAC アドレスを指定します。	「アクセスポート上のポートセキュリティの設定」(P.33-7)
switchport port-security mac-address sticky	スティッキポートセキュリティをイネーブルにします。	「ポートのスティッキアドレス」(P.33-5)
no switchport port-security mac-address sticky	スティッキセキュア MAC アドレスをダイナミック MAC セキュアアドレスに変換します。	「アクセスポート上のポートセキュリティの設定」(P.33-7)
switchport port-security maximum	インターフェイスに対して最大セキュア MAC アドレス数を設定します。	「例 1：最大セキュアアドレス数の設定」(P.33-10)
switchport port-security violation	違反モードを設定します。	「例 2：違反モードの設定」(P.33-10)

コマンド	目的	参照先
<code>no switchport port-security violation</code>	違反モードを設定します。	「アクセスポート上のポートセキュリティの設定」(P.33-7)
<code>switchport trunk encapsulation dot1q</code>	カプセル化モードを dot1q に設定します。	「例 1 : すべての VLAN での最大セキュア MAC アドレス制限の設定」(P.33-18)

ポートセキュリティの概要

ポートセキュリティを使用すると、ポート上で MAC アドレス（セキュア MAC アドレス）の数を制限し、未認証 MAC アドレスによるアクセスを防ぐことができます。また、指定したポートにセキュア MAC アドレスの最大数を設定することもできます（トランクポートの VLAN に対しても任意で設定できます）。セキュアポートが最大数を超えるとセキュリティ違反がトリガーされ、そのポートに設定された違反処理モードに基づいて違反アクションが実行されます。

そのポートの最大セキュア MAC アドレス数を 1 に設定すると、そのセキュアポートに接続された装置だけがそのポートにアクセスできるようになります。

ポート上でセキュア MAC アドレスがセキュアな場合、その MAC アドレスはその VLAN 以外のポートでは受信されません。他の VLAN のポートに送信すると、パケットは通知されないままハードウェアでドロップされます。インターフェイスまたはポートカウンタを使用する場合は別として、ドロップされたことを知らせるログメッセージが表示されることはありません。これにより違反がトリガーされることに注意する必要があります。このようなパケットはハードウェアでドロップする方が効率的であり、CPU に余分な負荷がかかることはありません。

ポートセキュリティには次のような特性があります。

- セキュア MAC アドレスをエージングアウトできます。サポートされているエージングは、非アクティブと絶対の 2 種類です。
- スティック機能をサポートします。この機能により、ポート上のセキュア MAC アドレスがスイッチのリブートとリンクフラップを通じて保持されます。
- アクセス、音声、トランク、EtherChannel、プライベート VLAN ポートなど、さまざまな種類のポート上で設定できます。

ここでは、次の内容について説明します。

- 「セキュア MAC アドレス」(P.33-3)
- 「セキュア MAC アドレスの最大数」(P.33-4)
- 「セキュア MAC アドレスのエージング」(P.33-5)
- 「ポートのスティックアドレス」(P.33-5)
- 「違反処理」(P.33-6)

セキュア MAC アドレス

ポートセキュリティは、次のタイプのセキュア MAC アドレスをサポートします。

- ダイナミックまたは学習済み：セキュアポートのホストからパケットを受信すると、ダイナミックセキュア MAC アドレスが学習されます。このタイプは、ユーザの MAC アドレスが固定されていない場合（たとえばラップトップの場合）に使用します。

- スタティックまたは設定済み：ユーザは、CLI または SNMP を通じてスタティック セキュア MAC アドレスを設定します。このタイプは、MAC アドレスが固定されている場合（たとえば PC の場合）に使用します。
- スティック：スティックアドレスはダイナミック セキュア MAC アドレスと同じように学習されますが、スタティック セキュア MAC アドレスと同じようにスイッチの再起動やリンク フラップを通じて継続されます。このタイプは、固定 MAC アドレスが多数あって手動で MAC アドレスを設定しない場合（たとえば 100 台の PC がそれぞれのポートでセキュアになっている場合）に使用します。

ポートのセキュア MAC アドレスが最大数を超過しているときにスタティック セキュア MAC アドレスを設定しようとすると、設定が拒否されエラー メッセージが表示されます。ポートのセキュア MAC アドレスが最大数を超過しているときにダイナミック セキュア MAC アドレスが新しく追加されると、違反処理がトリガーされます。

ダイナミック セキュア MAC アドレスをクリアするには、**clear port-security** コマンドを使用します。スティック セキュア MAC アドレスとスタティック セキュア MAC アドレスを同時にクリアするには、**switchport port-security mac-address** コマンドの **no** 形式を使用します。

セキュア MAC アドレスの最大数

セキュア ポートの MAC アドレスは、デフォルトで 1 つです。このデフォルト値は、1 ~ 3,000 の任意の値に変更できます。上限の 3,000 を指定すると、各ポートに MAC アドレスが 1 つ設定され、さらにシステムのポート全体で 3,000 の MAC アドレスが設定されます。

ポートに最大セキュア MAC アドレス数を設定すると、セキュア アドレスを次のいずれかの方法でアドレス テーブルに含めることができます。

- セキュア MAC アドレスを設定するには、**switchport port-security mac-address mac_address** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。
- トランクポートの VLAN 範囲にすべてのセキュア MAC アドレスを設定するには、**port-security mac-address VLAN 範囲** コンフィギュレーション コマンドを使用します。
- ポートは、接続デバイスの MAC アドレスを使用してセキュア MAC アドレスをダイナミックに設定します。
- いくつかのアドレスを手動で設定し、残りはダイナミックに設定されるようにすることも可能です。



(注)

ポートのリンクがダウンした場合、そのポート上のダイナミック セキュア アドレスはすべてセキュアではなくなります。

- MAC アドレスをスティックに設定できます。MAC アドレスはダイナミックに学習されるか、または手動で設定され、アドレス テーブル内に格納され、実行コンフィギュレーションに追加されます。これらのアドレスをコンフィギュレーション ファイルに保存したあとは、スイッチを再起動しても、インターフェイスはダイナミックにこれらのアドレスを再学習する必要がありません。スティック セキュア アドレスを手動で設定することは可能ですが、推奨しません。



(注)

トランク ポートでは、セキュア MAC アドレスの最大数をポートとポート VLAN の両方に設定できません。ポートでの最大数をポート VLAN での最大数と同じかそれ以上にするにはできませんが、ポート VLAN での最大数よりも少なくすることはできません。ポートの最大数がいずれかのポート VLAN の最大数よりも小さい場合（VLAN 10 の最大数を 3 に設定し、「スイッチ ポートの最大数」を設定しない場合（デフォルトは 1））、VLAN 10 のダイナミック アドレスが 2 つになるとポートはシャットダウンします（「ポートセキュリティの注意事項および制約事項」(P.33-32) を参照）。ポート VLAN の最

大数により、指定した VLAN の指定したポートに最大数が設定されます。指定した VLAN で最大数を超過しポートの最大数は超過していない場合でも、ポートはシャットダウンします。ポートのいずれか 1 つの VLAN が違反した場合でも、ポート全体がシャットダウンします。

セキュア MAC アドレスのエージング

スイッチが 3,000 件より多くの入力アドレスを受信する場合、セキュア MAC アドレスをエージングさせることができます。



(注) スティック アドレスのエージングはサポートされません。

デフォルトでは、ポートセキュリティはセキュア MAC アドレスをエージング アウトしません。学習された MAC アドレスは、スイッチがリブートするかリンクがダウンするまでポートに残ります（スティック機能がイネーブルでないかぎり）。ただしポートセキュリティでは、絶対モードまたは非アクティビティ モードおよびエージング間隔（1 ~ n、分単位）に基づいてエージングを設定できます。

- 絶対モード：n と n+1 の間のエージング
- 非アクティビティ モード：n+1 と n+2 の間のエージング

この機能を使用すると、既存のセキュア MAC アドレスを手動で削除しなくても、ポートのセキュア アドレス数を制限しながら、セキュア ポート上の PC の取り外しを削除および追加ができます。

switchport port-security aging static コマンドを使用してスタティック エージングを明示的に設定しないかぎり、ポートでエージングが設定されていてもスタティック アドレスがエージングすることはありません。



(注) エージングは 1 分ごとに増加します。

ポートのスティック アドレス

スティックポートセキュリティをイネーブルにすると、ダイナミック MAC アドレスをスティックセキュア MAC アドレスに変換し、それらを実行コンフィギュレーションに追加するように、インターフェイスを設定できます。この作業は、ユーザが他のポートに移動しないことがわかっている場合や各ポートに MAC アドレスをスタティックに設定しない場合に行います。



(注) 別のシャーシを使用する場合は、別の MAC アドレスが必要です。

スティックポートセキュリティをイネーブルにするには、**switchport port-security mac-address sticky** コマンドを入力します。このコマンドを入力すると、インターフェイスはすべてのダイナミックセキュア MAC アドレス（スティック ラーニングがイネーブルになる前にダイナミックに学習されたアドレスを含む）を、スティックセキュア MAC アドレスに変換します。

スティックセキュア MAC アドレスは、コンフィギュレーション ファイル（スイッチを再起動するたびに使用されるスタートアップ コンフィギュレーション）には、自動的に反映されません。コンフィギュレーション ファイルに実行コンフィギュレーション ファイルをユーザが保存した場合は、スイッチを再起動するときに、インターフェイスはこれらのアドレスを再学習する必要がありません。この設定は保存しないと失われます。

スティッキ ポート セキュリティをディセーブルにした場合、スティッキ セキュア MAC アドレスはダイナミック セキュア アドレスに変換され、実行コンフィギュレーションから削除されます。

最大数のセキュア MAC アドレスが設定されると、それらはアドレス テーブルに保存されます。接続デバイスがポートに唯一アクセスできるようにする場合は、接続デバイスの MAC アドレスを設定し、最大アドレス数を 1 に設定します (デフォルト設定)。

ポートに対する最大数のセキュア MAC アドレスがアドレス テーブルに追加されている場合に、アドレス テーブルにない MAC アドレスを持つワークステーションがインターフェイスにアクセスしようとすると、セキュリティ違反が発生します。

違反処理

ポートのセキュア MAC アドレス数がそのポートで許容されている最大セキュア MAC アドレス数を超過した場合、セキュリティ違反がトリガーされます。



(注)

あるポートでセキュアなホストが別のポートで認識された場合は、セキュア違反はトリガーされません。Catalyst 4500 シリーズ スイッチはハードウェア上で、そのようなパケットを新しいポートで自動的にドロップし、CPU に余分な負荷をかけません。

次のいずれかの違反モードをインターフェイスに設定できます。違反に対する応答に基づいています。

- **restrict** (制限) : ポート セキュリティ違反によりデータが制限され (つまり、ソフトウェアでパケットがドロップされ)、セキュリティ違反カウンタが増加し、SNMP 通知が生成されます。このモードは、セキュア ポートのサービスやアクセスを中断しないために設定します。

SNMP トラップが生成される頻度は、

snmp-server enable traps port-security trap-rate コマンドで制御できます。デフォルト値 (0) の場合、SNMP トラップはセキュリティ違反が発生するたびに生成されます。

- **shutdown** (シャットダウン) : ポート セキュリティ違反が発生すると、インターフェイスがただちにシャットダウンします。このモードは非常にセキュアな環境で使用します。セキュアではない MAC アドレスがソフトウェアで拒否されることを回避し、サービスが中断しても問題ではない場合です。

errdisable recovery cause psecure-violation グローバル コンフィギュレーション コマンドを設定すると、セキュア ポートが **errdisable** ステートの場合に実行してこのステートを自動的に解除できます。また、**shutdown** および **no shutdown** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力すると、手動で再びイネーブルにできます。これは、デフォルトのモードです。

また、**errdisable recovery interval interval** コマンドを入力して、指定したエラー ディセーブル理由から回復する時間 (デフォルトは 300 秒) をカスタマイズすることも可能です。

無効なパケット操作

デバイスが無効なパケットを送信すると思われる場合 (トラフィック ジェネレータ、スニッファ、不良な NIC など)、セキュア ポート上で無効な送信元 MAC アドレス パケットのレート制限を行うことができます。ポート セキュリティにより、すべてゼロの MAC アドレスを持つパケットと、マルチキャストまたはブロードキャスト送信元 MAC アドレスを持つパケットは、無効なパケットと見なされます。これらのパケットのレート制限を選択し、レートを超過した場合はポートに対する違反処理をトリガーできます。

アクセスポート上のポートセキュリティ

ここでは、ポートセキュリティを設定する方法について説明します。

- 「アクセスポート上のポートセキュリティの設定」(P.33-7)
- 「例」(P.33-10)



(注) アクセスモードに設定されたレイヤ2ポートチャンネルインターフェイスのポートセキュリティはイネーブルにすることができます。EtherChannelのポートセキュリティ設定は、物理メンバポートの設定とは別に保持されます。

アクセスポート上のポートセキュリティの設定

ポートで許容されたステーションのMACアドレスを制限および識別することにより、ポートのトラフィックを制限するには、次の作業を行います。

	コマンド	目的
ステップ1	Switch(config)# interface <i>interface_id</i> interface <i>port-channel port_channel_number</i>	インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始し、設定するインターフェイスを指定します。 (注) レイヤ2ポートチャンネル論理インターフェイスを指定できます。
ステップ2	Switch(config-if)# switchport mode access	インターフェイスモードを設定します。 (注) デフォルトモード (dynamic desirable) のインターフェイスは、セキュアポートとして設定できません。
ステップ3	Switch(config-if)# [no] switchport port-security	そのインターフェイスのポートセキュリティをイネーブルにします。 インターフェイスをセキュアポートでないデフォルトの状態に戻すには、 no switchport port-security コマンドを使用します。
ステップ4	Switch(config-if)# [no] switchport port-security maximum value	(任意) インターフェイスの最大セキュアMACアドレス数を設定します。指定できる範囲は1～3072です。デフォルト値は1です。 インターフェイスをデフォルトのセキュアMACアドレス数に戻すには、 no switchport port-security maximum value を使用します。

コマンド	目的 (続き)
ステップ 5 Switch(config-if)# switchport port-security [aging {static time aging_time type {absolute inactivity}]	<p>ポート上のすべてのセキュアアドレスに対して、エージングタイムとエージングタイプを設定します。</p> <p>この機能を使用すると、既存のセキュア MAC アドレスを手動で削除しなくても、ポートのセキュアアドレス数を制限しながら、セキュアポート上の PC の取り外しおよび追加ができます。</p> <p>static キーワードは、このポートにスタティックに設定されたセキュアアドレスのエージングをイネーブルにします。</p> <p>time aging_time キーワードは、このポートのエージングタイムを指定します。aging_time の有効範囲は 0 ~ 1440 分です。時間が 0 の場合、このポートのエージングはディセーブルになります。</p> <p>type キーワードは、エージングタイプを absolute または inactive に設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • absolute : このポートのすべてのセキュアアドレスは指定した時間 (分) が経過したあとに期限切れとなり、セキュアアドレスリストから削除されます。 • inactive : 指定された時間内にセキュア送信元アドレスからのデータトラフィックがない場合にだけ、このポートのセキュアアドレスが期限切れとなります。 <p>ポート上のすべてのセキュアアドレスに対してポートセキュリティエージングをディセーブルにするには、no switchport port-security aging time インターフェイスコンフィギュレーションコマンドを使用します。</p>
ステップ 6 Switch(config-if)# [no] switchport port-security violation {restrict shutdown}	<p>(任意) 違反モードを設定します。セキュリティ違反が発生した場合に、次のいずれかのアクションを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • restrict : ポートセキュリティ違反によりデータが制限され、セキュリティ違反カウンタが増加して、SNMP トラップ通知が送信されます。 • shutdown : セキュリティ違反が発生すると、インターフェイスが errdisable になります。 <p>(注) セキュアポートが errdisable ステートの場合、errdisable recovery cause psecure-violation グローバルコンフィギュレーションコマンドを入力してこのステートを解除したり、shutdown および no shutdown インターフェイスコンフィギュレーションコマンドを入力して手動で再びイネーブルにしたりできます。</p> <p>違反モードをデフォルトの状態 (シャットダウンモード) に戻すには、no switchport port-security violation shutdown コマンドを使用します。</p>
ステップ 7 Switch(config-if)# switchport port-security limit rate invalid-source-mac packets_per_sec	<p>不良パケットに対してレート制限を設定します。</p> <p>デフォルトは 10 pps です。</p>

	コマンド	目的 (続き)
ステップ 8	Switch(config-if)# [no] switchport port-security mac-address mac_address	<p>(任意) インターフェイスのセキュア MAC アドレスを入力します。このコマンドを使用するとセキュア MAC アドレスが設定できます。設定したセキュア MAC アドレスが最大数より少ない場合、残りの MAC アドレスは動的に学習されます。</p> <p>MAC アドレスをアドレス テーブルから削除するには、no switchport port-security mac-address mac_address コマンドを使用します。</p> <p>(注) このコマンドは、アクセス、PVLAN ホスト、および PVLAN 混合モードに対してだけ適用できます。PVLAN、トランク、または通常のトランク モードの詳細については、「トランク ポートのポートセキュリティ」(P.33-16) を参照してください。</p>
ステップ 9	Switch(config-if)# [no] switchport port-security mac-address sticky	<p>(任意) インターフェイス上でスティッキ ラーニングをイネーブルにします。</p> <p>インターフェイス上でスティッキ ラーニングをディセーブルにするには、no switchport port-security mac-address sticky コマンドを使用します。インターフェイスはスティッキセキュア MAC アドレスをダイナミックセキュア アドレスに変換します。</p>
ステップ 10	Switch(config-if)# [no] switchport port-security mac-address mac_address sticky [vlan [voice access]]	<p>インターフェイスにスティッキ MAC アドレスを指定します。</p> <p>vlan キーワードを指定すると、指定した VLAN の MAC アドレスがスティッキになります。</p> <p>アドレス テーブルからスティッキセキュア MAC アドレスを削除するには、no switchport port-security mac-address mac_address sticky コマンドを使用します。スティッキアドレスをダイナミック アドレスに変換するには、no switchport port-security mac-address sticky コマンドを使用します。</p> <p>(注) このコマンドは、アクセス、PVLAN ホスト、および PVLAN 混合モードに対してだけ適用できます。PVLAN、トランク、または通常のトランク モードの詳細については、「トランク ポートのポートセキュリティ」(P.33-16) を参照してください。</p>
ステップ 11	Switch(config-if)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 12	Switch# show port-security address Switch# show port-security address	入力を確認します。



(注) ダイナミックに学習されたポートセキュリティ MAC アドレスを CAM テーブルから削除するには、**clear port-security dynamic** コマンドを使用します。**address** キーワードを指定すると、セキュア MAC アドレスを削除できます。**interface** キーワードを指定すると、各種のインターフェイス上の

(ポートチャネルインターフェイスを含む)すべてのセキュアアドレスを削除できるようになります。**VLAN** キーワードにより、**per-VLAN per-Port** 単位でポートセキュリティ MAC アドレスをクリアできます。

例

ここでは、次の例を示します。

- 「例 1 : 最大セキュアアドレス数の設定」 (P.33-10)
- 「例 2 : 違反モードの設定」 (P.33-10)
- 「例 3 : エージングタイマーの設定」 (P.33-11)
- 「例 4 : エージングタイマーのタイプの設定」 (P.33-11)
- 「例 5 : セキュア MAC アドレスの設定」 (P.33-11)
- 「例 6 : スティックポートセキュリティの設定」 (P.33-12)
- 「例 7 : 不良パケットに対するレート制限の設定」 (P.33-13)
- 「例 8 : ダイナミックセキュア MAC アドレスの削除」 (P.33-13)

例 1 : 最大セキュアアドレス数の設定

次に、インターフェイス FastEthernet 3/12 でポートセキュリティをイネーブルにし、セキュアアドレスの最大数を 5 に設定する例を示します。違反モードはデフォルトのまま、セキュア MAC アドレスは設定されません。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet 3/12
Switch(config-if)# switchport mode access
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# switchport port-security maximum 5
Switch(config-if)# switchport port-security mac-address sticky
Switch(config-if)# end
Switch# show port-security interface fastethernet 3/12
Port Security           : Enabled
Port Status             : Secure-up
Violation Mode          : Shutdown
Aging Time              : 0 mins
Aging Type              : Absolute
SecureStatic Address Aging : Enabled
Maximum MAC Addresses   : 5
Total MAC Addresses     : 0
Configured MAC Addresses : 0
Sticky MAC Addresses    : 0
Last Source Address:Vlan : 0000.0000.0000:0
Security Violation Count : 0
```

例 2 : 違反モードの設定

この例では、インターフェイス FastEthernet 3/12 の違反モードを **restrict** に設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet 3/12
Switch(config-if)# switchport port-security violation restrict
```

```
Switch(config-if)# end
Switch#
```

レート制限を使用することによって SNMP トラップをイネーブルにし、制限モードによるポートセキュリティ違反を検出します。次に、1 秒間に 5 回のポートセキュリティのトラップをイネーブルにする例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# snmp-server enable traps port-security trap-rate 5
Switch(config)# end
Switch#
```

例 3 : エージング タイマーの設定

次に、インターフェイス FastEthernet 5/1 のセキュアアドレスのエージング タイムを 2 時間 (120 分) に設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet 5/1
Switch(config-if)# switchport port-security aging time 120
Switch(config-if)# end
Switch#
```

次に、エージング タイムを 2 分に設定する例を示します。

```
Switch(config-if)# switchport port-security aging time 2
```

上記のコマンドを確認するには、**show port-security interface** コマンドを使用します。

例 4 : エージング タイマーのタイプの設定

次に、インターフェイス FastEthernet 3/5 のセキュアアドレスでエージング タイム タイプを **inactivity** に設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastethernet 3/5
Switch(config-if)# switch port-security aging type inactivity
Switch(config-if)# end
Switch# show port-security interface fastethernet 3/5
Port Security                : Enabled
Port Status                   : Secure-up
Violation Mode                : Shutdown
Aging Time                    : 0 mins
Aging Type                     : Inactivity
SecureStatic Address Aging    : Disabled
Maximum MAC Addresses         : 1
Total MAC Addresses           : 0
Configured MAC Addresses      : 0
Sticky MAC Addresses          : 0
Last Source Address:Vlan     : 0000.0000.0000:0
Security Violation Count      : 0
```

例 5 : セキュア MAC アドレスの設定

次に、インターフェイス FastEthernet 5/1 にセキュア MAC アドレスを設定し、設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fastEthernet 5/1
Switch(config-if)# switchport mode access
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# switchport port-security maximum 10
Switch(config-if)# switchport port-security mac-address 0000.0000.0003 (Static secure MAC)
Switch(config-if)# end
Switch#show port address
Secure Mac Address Table
-----
Vlan      Mac Address      Type                Ports      Remaining Age
-----  -
1         0000.0000.0003   SecureConfigured   Fa5/1      -
-----
Total Addresses in System (excluding one mac per port) : 2
Max Addresses limit in System (excluding one mac per port) : 3072
```

例 6 : スティックポートセキュリティの設定

次に、インターフェイス FastEthernet 5/1 にスティック MAC アドレスを設定し、設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fa5/1
Switch(config-if)# switchport mode access
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# switchport port-security mac-address sticky
Switch(config-if)# switchport port-security maximum 5
Switch(config-if)# end
```



(注)

ポートにトラフィックを送信すると、ポートにスティックセキュアアドレスが設定されます。

```
Switch# show port-security address
Secure Mac Address Table
-----
Vlan      Mac Address      Type                Ports      Remaining Age
-----  -
1         0000.0000.0001   SecureSticky        Fa5/1      -
1         0000.0000.0002   SecureSticky        Fa5/1      -
1         0000.0000.0003   SecureSticky        Fa5/1      -
-----
Total Addresses in System (excluding one mac per port) : 2
Max Addresses limit in System (excluding one mac per port) : 3072
Switch# show running-config interface fastEthernet 5/1
Building configuration...

Current configuration : 344 bytes
!
interface FastEthernet5/1
 switchport mode access
 switchport port-security
 switchport port-security maximum 5
 switchport port-security mac-address sticky
 switchport port-security mac-address sticky 0000.0000.0001
 switchport port-security mac-address sticky 0000.0000.0002
 switchport port-security mac-address sticky 0000.0000.0003
```

```
end  
  
Switch#
```

例 7 : 不良パケットに対するレート制限の設定

次に、インターフェイス FastEthernet 5/1 の無効な送信元パケットにレート制限を設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal  
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.  
Switch(config)# interface fastethernet 5/1  
Switch(config-if)# switchport port-security limit rate invalid-source-mac 100  
Switch(config-if)# end  
Switch#
```

次に、インターフェイス FastEthernet 5/1 の無効な送信元パケットにレート制限を設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal  
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.  
Switch(config)# interface fastethernet 5/1  
Switch(config-if)# switchport port-security limit rate invalid-source-mac none  
Switch(config-if)# end  
Switch#
```

例 8 : ダイナミック セキュア MAC アドレスの削除

次に、ダイナミック セキュア MAC アドレスを削除する例を示します。

```
Switch# clear port-security dynamic address 0000.0001.0001
```

次に、インターフェイス FastEthernet 2/1 のすべてのダイナミック セキュア MAC アドレスを削除する例を示します。

```
Switch# clear port-security dynamic interface fa2/1
```

次に、システムのすべてのダイナミック セキュア MAC アドレスを削除する例を示します。

```
Switch# clear port-security dynamic
```

プライベート VLAN ポートのポートセキュリティ

プライベート VLAN ポート上でポートセキュリティを設定すると、プライベート VLAN 機能を利用しながら MAC アドレスの数を制限できます。



(注) ここでは、アクセス ポートで説明したものと同一設定モデルを使用します。

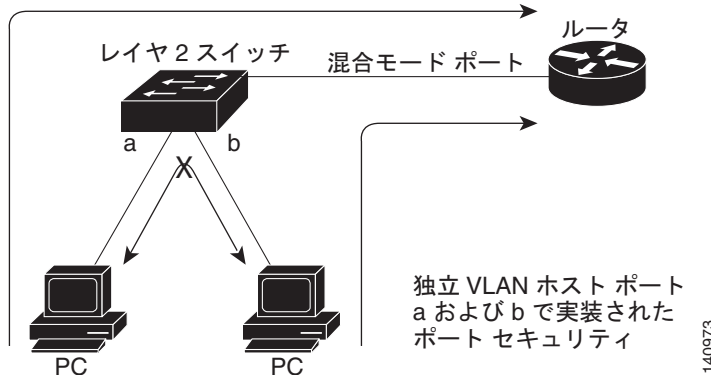
ここでは、ホストと混合モード ポート上でトランク ポートセキュリティを設定する方法を説明します。

- 「独立プライベート VLAN ホスト ポートでのポートセキュリティの設定」 (P.33-14)
- 「独立プライベート VLAN ホスト ポートでのポートセキュリティの例」 (P.33-15)
- 「プライベート VLAN 混合モード ポートでのポートセキュリティの設定」 (P.33-15)
- 「プライベート VLAN 混合モード ポートでのポートセキュリティの例」 (P.33-16)

独立プライベート VLAN ホストポートでのポートセキュリティの設定

図 33-1 に、プライベート VLAN ホストポートに実装されている代表的なポートセキュリティのトポロジを示します。このトポロジでは、スイッチのポート a で接続する PC は、混合モードポートで接続するルータだけと通信できます。ポート a で接続する PC はポート b で接続する PC とは通信できません。

図 33-1 独立プライベート VLAN ホストポートのポートセキュリティ



(注) プライベート VLAN 上の独立プライベート VLAN ホストポートでセキュアなダイナミックアドレスはセカンダリ VLAN 上でセキュアであり、プライマリ VLAN 上ではセキュアではありません。

独立プライベート VLAN ホストポート上でポートセキュリティを設定するには、次の作業を行います。

コマンド	目的
ステップ 1 Switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2 Switch(config)# vlan sec_vlan_id	セカンダリ VLAN を指定します。
ステップ 3 Switch(config-vlan)# private-vlan isolated	プライベート VLAN モードを isolated に設定します。
ステップ 4 Switch(config-vlan)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 5 Switch(config)# vlan pri_vlan_id	プライマリ VLAN を指定します。
ステップ 6 Switch(config-vlan)# private-vlan primary	VLAN をプライマリ プライベート VLAN として指定します。
ステップ 7 Switch(config-vlan)# private-vlan association add sec_vlan_id	セカンダリ VLAN とプライマリ VLAN のアソシエーションを作成します。
ステップ 8 Switch(config-vlan)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 9 Switch(config)# interface interface_id	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、設定する物理インターフェイスを指定します。
ステップ 10 Switch(config-if)# switchport mode private-vlan host	有効なプライベート VLAN トランクのアソシエーションを持つポートが、アクティブホストのプライベート VLAN トランクポートになるように指定します。
ステップ 11 Switch(config-if)# switchport private-vlan host-association primary_vlan secondary_vlan	独立ホストポート上でホストアソシエーションを設定します。
ステップ 12 Switch(config-if)# [no] switchport port-security	そのインターフェイスのポートセキュリティをイネーブルにします。

	コマンド	目的 (続き)
ステップ 13	Switch(config-if)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 14	Switch# show port-security address interface <i>interface_id</i> Switch# show port-security address	入力を確認します。

独立プライベート VLAN ホストポートでのポートセキュリティの例

次に、独立プライベート VLAN ホストポートであるインターフェイス FastEthernet 3/12 上でポートセキュリティを設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# vlan 6
Switch(config-vlan)# private-vlan isolated
Switch(config-vlan)# exit
Switch(config)# vlan 3
Switch(config-vlan)# private-vlan primary
Switch(config-vlan)# private-vlan association add 6
Switch(config-vlan)# exit
Switch(config)# interface fastethernet 3/12
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan host
Switch(config-if)# switchport private-vlan association host 3 6
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# end
```

プライベート VLAN 混合モードポートでのポートセキュリティの設定

独立プライベート VLAN 混合モードポート上でポートセキュリティを設定するには、次の作業を行います。

	コマンド	目的
ステップ 1	Switch# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	Switch(config)# vlan sec_vlan_id	VLAN を設定します。
ステップ 3	Switch(config-vlan)# private-vlan isolated	プライベート VLAN モードを isolated に設定します。
ステップ 4	Switch(config-vlan)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 5	Switch(config)# vlan pri_vlan_id	VLAN を設定します。
ステップ 6	Switch(config-vlan)# private-vlan primary	VLAN をプライマリ プライベート VLAN として指定します。
ステップ 7	Switch(config-vlan)# private-vlan association add sec_vlan_id	セカンダリ VLAN とプライマリ VLAN のアソシエーションを作成します。
ステップ 8	Switch(config-vlan)# exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 9	Switch(config)# interface interface_id	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、設定する物理インターフェイスを指定します。
ステップ 10	Switch(config-if)# switchport mode private-vlan promiscuous	有効な PVLAN マッピングのあるポートがアクティブ混合モードポートになるように指定します。
ステップ 11	Switch(config-if)# switchport private-vlan mapping primary_vlan secondary_vlan	混合モードポートに対してプライベート VLAN を設定します。

■ トランク ポートのポートセキュリティ

	コマンド	目的 (続き)
ステップ 12	Switch(config-if)# switchport port-security	そのインターフェイスのポートセキュリティをイネーブルにします。
ステップ 13	Switch(config-if)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 14	Switch# show port-security address Switch# show port-security address	入力を確認します。

プライベート VLAN 混合モード ポートでのポートセキュリティの例

次に、プライベート VLAN 混合モード ポートであるインターフェイス FastEthernet 3/12 上でポートセキュリティを設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# vlan 6
Switch(config-vlan)# private-vlan isolated
Switch(config-vlan)# exit
Switch(config)# vlan 3
Switch(config-vlan)# private-vlan primary
Switch(config-vlan)# private-vlan association add 6
Switch(config-vlan)# exit
Switch(config)# interface fastethernet 3/12
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan promiscuous
Switch(config-if)# switchport mode private-vlan mapping 3 6
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# end
```

トランク ポートのポートセキュリティ

メトロ集約のトランク ポート上にポートセキュリティを設定すると、VLAN ごとに MAC アドレスの数を制限できます。トランク ポートセキュリティにより、ポートセキュリティがトランク ポートにまで拡張されます。許容される MAC アドレスまたは MAC アドレスの最大数は、トランク ポート上の個々の VLAN ごとに制限されます。トランク ポートセキュリティにより、サービスプロバイダーはそのトランク ポートの VLAN に指定されたものとは異なる MAC アドレスを持つステーションからのアクセスをブロックできるようになります。また、トランク ポートセキュリティはプライベート VLAN のトランク ポートでもサポートされます。



(注)

アクセス モードに設定されたレイヤ 2 ポート チャネル インターフェイスのポートセキュリティはイネーブルにすることができます。EtherChannel のポートセキュリティ設定は、物理メンバポートの設定とは別に保持されます。

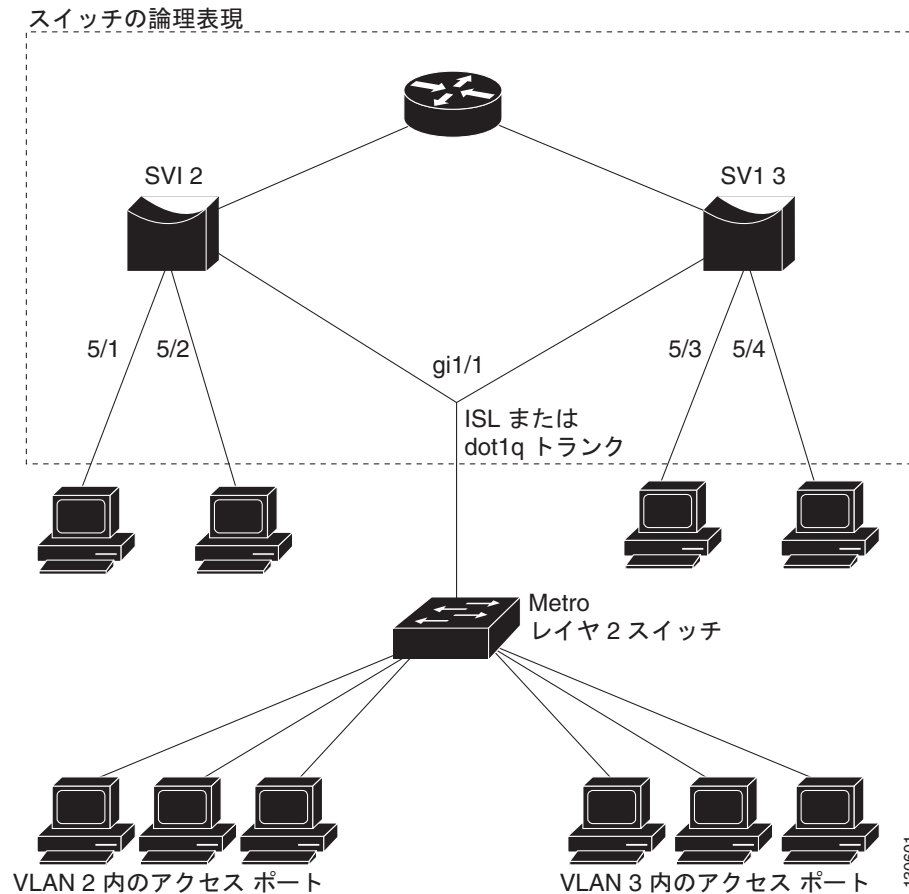
ここでは、トランク ポートセキュリティを設定する方法について説明します。

- 「トランク ポートセキュリティの設定」(P.33-17)
- 「トランク ポートセキュリティの例」(P.33-18)
- 「トランク ポートセキュリティの注意事項および制約事項」(P.33-20)

トランク ポート セキュリティの設定

Catalyst 4500 シリーズ スイッチの 802.1q または ISL トランクが近接するレイヤ 2 スイッチに接続されている場合は、ポートセキュリティが使用されます。たとえば、メトロ集約ネットワーク (図 33-2) で使用されます。

図 33-2 トランク ポート セキュリティ



さまざまなポートセキュリティ関連パラメータをポート単位/VLAN単位で設定できます。



(注)

ポートセキュリティパラメータを設定する手順はアクセスポートの場合と似ています。トランクポートの場合は、これらの手順に加えて次のポート単位/VLAN単位設定を行います。

ポートセキュリティ関連パラメータをポート単位/VLAN 単位で設定するには、次の作業を行います。

	コマンド	目的
ステップ 1	Switch(config)# interface <i>interface_id</i> interface <i>port-channel port_channel_number</i>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、設定するインターフェイスを指定します。 (注) レイヤ 2 ポート チャンネル論理インターフェイスを指定できます。
ステップ 2	Switch(config-if)# switchport trunk encapsulation dot1q	トランク カプセル化形式を 802.1Q に設定します。
ステップ 3	Switch(config-if)# switchport mode trunk	インターフェイス モードを設定します。 (注) デフォルト モード (dynamic desirable) のインターフェイスは、セキュア ポートとして設定できません。
ステップ 4	Switch(config-if)# switchport port-security maximum value vlan	最大 MAC アドレス制限が明示的に設定されていない VLAN ごとに、最大セキュア MAC アドレス数を設定します (「セキュア MAC アドレスの最大数」(P.33-4)を参照)。
ステップ 5	Switch(config-if)# vlan-range range	VLAN 範囲サブモードを開始します。 (注) 単一または複数の VLAN を指定できます。
ステップ 6	Switch(config-if-vlan-range)# port-security maximum value	最大セキュア MAC アドレス数を VLAN ごとに設定します。
ステップ 7	Switch(config-if-vlan-range)# no port-security maximum	すべての VLAN の最大セキュア MAC アドレス数の設定を削除します。そのあと、ポートに設定された最大値がすべての VLAN で使用されます。
ステップ 8	Switch(config-if-vlan-range)# [no] port-security mac-address mac_address	VLAN 範囲にセキュア MAC アドレスを設定します。
ステップ 9	Switch(config-if-vlan-range)# [no] port-security mac-address sticky mac_address	VLAN 範囲にスティッキ MAC アドレスを設定します。
ステップ 10	Switch(config-if-vlan-range)# end	インターフェイス コンフィギュレーション モードに戻ります。
ステップ 11	Switch(config-if)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

トランク ポート セキュリティの例

ここでは、次の例を示します。

- 「例 1 : すべての VLAN での最大セキュア MAC アドレス制限の設定」(P.33-18)
- 「例 2 : 特定の VLAN での最大セキュア MAC アドレス制限の設定」(P.33-19)
- 「例 3 : VLAN 範囲でのセキュア MAC アドレスの設定」(P.33-19)

例 1 : すべての VLAN での最大セキュア MAC アドレス制限の設定

次に、すべての VLAN のインターフェイス GigabitEthernet 1/1 上でセキュア MAC アドレスおよび最大セキュア MAC アドレス制限を設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
```

```
Switch(config)# interface g1/1
Switch(config-if)# switchport trunk encapsulation dot1q
Switch(config-if)# sw mode trunk
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# switchport port-security maximum 3

Switch# show port-security in g1/1 vlan
Default maximum: 3
VLAN Maximum Current
   1         3         0
   2         3         0
   3         3         0
   4         3         0
   5         3         0
   6         3         0
Switch#

Switch# show running interface g1/1
Building configuration...

Current configuration : 161 bytes
!
interface GigabitEthernet1/1
 switchport trunk encapsulation dot1q
 switchport mode trunk
 switchport port-security
 switchport port-security maximum 3 vlan
end
```

例 2 : 特定の VLAN での最大セキュア MAC アドレス制限の設定

次に、特定の VLAN または VLAN 範囲のインターフェイス g1/1 にセキュア MAC アドレスを設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface g1/1
Switch(config-if)# switchport trunk encapsulation dot1q
Switch(config-if)# sw mode trunk
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# vlan-range 2-6
Switch(config-if-vlan-range)# port-security maximum 3
Switch(config-if)# exit

Switch# show port-security interface g1/1 vlan
Default maximum: not set, using 3072
VLAN Maximum Current
   2         3         0
   3         3         0
   4         3         0
   5         3         0
   6         3         0
Switch#
```

例 3 : VLAN 範囲でのセキュア MAC アドレスの設定

次に、インターフェイス g1/1 上の VLAN でセキュア MAC アドレスを設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface g1/1
Switch(config-if)# switchport trunk encapsulation dot1q
```

```

Switch(config-if)# sw mode trunk
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# switchport port-security mac-address sticky
Switch(config-if)# vlan-range 2-6
Switch(config-if-vlan-range)# port-security mac-address 1.1.1
Switch(config-if-vlan-range)# port-security mac-address sticky 1.1.2
Switch(config-if-vlan-range)# port-security mac-address sticky 1.1.3
Switch(config-if-vlan-range)# exit
Switch# show port-security interface g1/1 address vlan 2-4
      Secure Mac Address Table
-----
Vlan    Mac Address          Type                Ports    Remaining Age
-----
-----
      2    0001.0001.0001      SecureConfigured    Gi1/1    -
      2    0001.0001.0002      SecureSticky        Gi1/1    -
      2    0001.0001.0003      SecureSticky        Gi1/1    -
      3    0001.0001.0001      SecureConfigured    Gi1/1    -
      3    0001.0001.0002      SecureSticky        Gi1/1    -
      3    0001.0001.0003      SecureSticky        Gi1/1    -
      4    0001.0001.0001      SecureConfigured    Gi1/1    -
      4    0001.0001.0002      SecureSticky        Gi1/1    -
      4    0001.0001.0003      SecureSticky        Gi1/1    -
-----
Total Addresses: 9

Switch#

```

トランク ポート セキュリティの注意事項および制約事項

ポート単位/VLAN 単位でポートセキュリティ関連パラメータを設定する場合は、次の注意事項に従ってください。

- セキュア MAC アドレスは、通常のトランク ポートで許容されていない VLAN では設定できません。
- プライベート VLAN トランク上のプライマリ VLAN の設定はできません。CLI は拒否され、エラーメッセージが表示されます。
- ポート上の特定の VLAN で最大値が設定されていない場合（直接的または間接的）、この VLAN にはポートに設定された最大値が使用されます。この場合、この VLAN 上のセキュアアドレスの最大数はポートに設定された最大値に制限されます。

各 VLAN は、ポートで設定された値よりも大きい最大数を設定できます。また、すべての VLAN に設定される最大値の合計は、ポートに設定される最大値を上回ることができます。いずれの場合でも、各 VLAN のセキュア MAC アドレス数は、VLAN の設定最大値とポートの設定最大値の小さい方の数に制限されます。また、すべての VLAN のポートでのセキュアアドレス数は、ポートに設定された最大数を超えることはできません。

- プライベート VLAN のトランク ポートでは、設定が実行される VLAN は、プライベート VLAN トランクの許容 VLAN リストか、またはアソシエーション ペアのセカンダリ VLAN リスト内にある必要があります（この条件が満たされていない場合、CLI は拒否されます）。プライベート VLAN トランク上の許容 VLAN リストでは、プライベート VLAN トランクで許可されたすべての通常の VLAN の VLAN ID が保持されます。
- PVLAN トランクからアソシエーション ペアを削除すると、ペアのセカンダリ VLAN に関連付けられたすべてのスタティックおよびスティックアドレスが実行コンフィギュレーションから削除されます。セカンダリ VLAN に関連付けられているダイナミック アドレスはシステムから削除されます。

同様に、許容された PVLAN トランクのリストから VLAN を削除すると、その VLAN に関連付けられているアドレスが削除されます。



(注)

通常の VLAN またはプライベート VLAN のトランク ポートでは、VLAN が許容 VLAN リストから削除されると、その VLAN に関連付けられたすべてのアドレスが削除されます。

ポート モードの変更

一般的にポート モードが変更されると、そのポートに関連付けられたすべてのダイナミック アドレスは削除されます。すべてのスタティックまたはスティック アドレス、およびネイティブ VLAN で設定されたその他のポートセキュリティ パラメータは、新しいモードのポートのネイティブ VLAN に移されます。非ネイティブ VLAN のすべてのアドレスは削除されます。

ネイティブ VLAN とは、次のポート タイプの VLAN です。

ポート タイプ	ネイティブ VLAN
access	アクセス VLAN
trunk	ネイティブ VLAN
isolated	セカンダリ VLAN (ホスト アソシエーションから)
promiscuous	プライマリ VLAN (マッピングから)
private VLAN trunk	プライベート VLAN トランク ネイティブ VLAN
.1Q tunnel	アクセス VLAN

たとえば、モードがアクセスからプライベート VLAN トランクに変わると、アクセス ポートのアクセス VLAN に設定されているすべてのスタティックおよびスティック アドレスは、プライベート VLAN トランク ポートのプライベート VLAN ネイティブ VLAN に移動します。その他のアドレスはすべて削除されます。

同様に、プライベート VLAN トランク モードからアクセス モードに変わると、プライベート VLAN ネイティブ VLAN に設定されているすべてのスタティックおよびスティック アドレスは、アクセス ポートのアクセス VLAN に移動します。その他のアドレスはすべて削除されます。

ポートがトランクからプライベート VLAN トランクに変わる場合は、許容されているプライベート VLAN トランクのリストにその VLAN がある場合、またはプライベート VLAN トランクで関連付けられているセカンダリ VLAN にある場合は、トランクの VLAN に関連付けられているアドレスはそのまま残ります。VLAN がいずれにもない場合は、実行コンフィギュレーションからアドレスが削除されます。

ポートがプライベート VLAN トランクからトランクに変わる場合は、アドレスに関連付けられている VLAN がトランクの許容 VLAN リストにあれば、スタティックまたはスティック アドレスはそのまま残ります。VLAN が許容されているリストにない場合、実行コンフィギュレーションからアドレスが削除されます。

音声ポート上のポートセキュリティ

ポートにデータ VLAN (PC 用) と音声 VLAN (Cisco IP Phone 用) が設定されている場合、IP テレフォニー環境にポートセキュリティを設定できます。

ここでは、音声ポート上にポートセキュリティを設定する方法について説明します。

- 「音声ポート上のポートセキュリティの設定」(P.33-22)
- 「音声ポートセキュリティの例」(P.33-24)
- 「音声ポートセキュリティの注意事項および制約事項」(P.33-26)

音声ポート上のポートセキュリティの設定

音声ポート上でポートセキュリティを設定するには、次の作業を行います。

	コマンド	目的
ステップ 1	Switch(config)# interface <i>interface_id</i>	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始し、設定する物理インターフェイスを指定します。
ステップ 2	Switch(config-if)# switchport mode access	インターフェイス モードを設定します。 (注) デフォルト モード (dynamic desirable) のインターフェイスは、セキュア ポートとして設定できません。
ステップ 3	Switch(config-if)# [no] switchport port-security	そのインターフェイスのポートセキュリティをイネーブルにします。 インターフェイスをセキュア ポートでないデフォルトの状態に戻すには、 no switchport port-security コマンドを使用します。
ステップ 4	Switch(config-if)# [no] switchport port-security violation {restrict shutdown}	(任意) 違反モードを設定します。セキュリティ違反が発生した場合に、次のいずれかのアクションを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • restrict : ポートセキュリティ違反によりデータが制限され、セキュリティ違反カウンタが増加して、SNMP トラップ通知が送信されます。 • shutdown : セキュリティ違反が発生すると、インターフェイスが errdisable になります。 (注) セキュア ポートが errdisable ステートの場合、 errdisable recovery cause psecure-violation グローバル コンフィギュレーション コマンドを入力してこのステートを解除したり、 shutdown および no shutdown インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを入力して手動で再びイネーブルにしたりできます。 違反モードをデフォルトの状態 (シャットダウン モード) に戻すには、 no switchport port-security violation shutdown コマンドを使用します。
ステップ 5	Switch(config-if)# switchport port-security limit rate invalid-source-mac <i>packets_per_sec</i>	不良パケットに対してレート制限を設定します。 デフォルトは 10 pps です。

コマンド	目的 (続き)
ステップ 6 Switch(config-if)# [no] switchport port-security mac-address mac_address [vlan {voice access}]	<p>(任意) インターフェイスのセキュア MAC アドレスを指定します。</p> <p>vlan キーワードを指定すると、指定した VLAN にアドレスが設定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • voice : 音声 VLAN に MAC アドレスが設定されます。 • access : アクセス VLAN に MAC アドレスが設定されます。 <p>このコマンドを使用するとセキュア MAC アドレスが設定できます。設定したセキュア MAC アドレスが最大数より少ない場合、残りの MAC アドレスは動的に学習されます。</p> <p>MAC アドレスをアドレス テーブルから削除するには、no switchport port-security mac-address mac_address コマンドを使用します。</p> <p>(注) このコマンドは、アクセス、PVLAN ホスト、および PVLAN 混合モードに対してだけ適用できます。PVLAN、トランク、または通常のトランク モードの詳細については、「トランク ポートのポートセキュリティ」(P.33-16) を参照してください。</p>
ステップ 7 Switch(config-if)# [no] switchport port-security mac-address sticky	<p>(任意) インターフェイス上でスティッキ ラーニングをイネーブルにします。</p> <p>インターフェイス上でスティッキ ラーニングをディセーブルにするには、no switchport port-security mac-address sticky コマンドを使用します。インターフェイスはスティッキ セキュア MAC アドレスをダイナミック セキュア アドレスに変換します。</p>

コマンド	目的 (続き)
ステップ 8 Switch(config-if)# [no] switchport port-security mac-address mac_address sticky [vlan {voice access}]	<p>インターフェイスにスティック MAC アドレスを指定します。</p> <p>vlan キーワードを指定すると、指定した VLAN の MAC アドレスがスティックになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • voice : 音声 VLAN の MAC アドレスがスティックになります。 • access : アクセス VLAN の MAC アドレスがスティックになります。 <p>アドレス テーブルからスティックセキュア MAC アドレスを削除するには、no switchport port-security mac-address mac_address sticky コマンドを使用します。スティック アドレスをダイナミック アドレスに変換するには、no switchport port-security mac-address sticky コマンドを使用します。</p> <p>(注) このコマンドは、アクセス、PVLAN ホスト、および PVLAN 混合モードに対してだけ適用できません。PVLAN、トランク、または通常のトランク モードの詳細については、「トランク ポートのポートセキュリティ」(P.33-16) を参照してください。</p>
ステップ 9 Switch(config-if)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 10 Switch# show port-security address interface interface_id Switch# show port-security address	入力を確認します。



(注)

ダイナミックに学習されたポートセキュリティ MAC アドレスを CAM テーブルから削除するには、**clear port-security dynamic** コマンドを使用します。**address** キーワードを指定すると、セキュア MAC アドレスを削除できます。**interface** キーワードを指定すると、インターフェイス上の (ポート チャネル インターフェイスを含む) すべてのセキュア アドレスを削除できます。**VLAN** キーワードにより、per-VLAN per-Port 単位でポートセキュリティ MAC アドレスをクリアできます。

音声ポート セキュリティの例

ここでは、次の例を示します。

- 「[例 1 : 音声 VLAN およびデータ VLAN への最大 MAC アドレスの設定](#)」(P.33-24)
- 「[例 2 : 音声 VLAN およびデータ VLAN へのスティック MAC アドレスの設定](#)」(P.33-25)

例 1 : 音声 VLAN およびデータ VLAN への最大 MAC アドレスの設定

次に、インターフェイス FastEthernet 5/1 上で Cisco IP Phone などの音声 VLAN と PC などのデータ VLAN に MAC アドレスをそれぞれ最大 1 つ設定して、設定を確認する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
```



```
Switch(config)# interface fa5/1
Switch(config-if)# switchport mode access
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# switchport port-security mac-address sticky
Switch(config-if)# switchport port-security maximum 1 vlan voice
Switch(config-if)# switchport port-security maximum 1 vlan access
Switch(config-if)# end
```



(注) ポートにトラフィックを送信すると、ポートにスティッキセキュアアドレスが設定されます。

```
Switch# show port-security address
Secure Mac Address Table
-----
Vlan    Mac Address      Type                Ports    Remaining Age
-----  -
1       0000.0000.0001   SecureSticky        Fa5/1    -
3       0000.0000.0004   SecureSticky        Fa5/1    -
-----
Total Addresses in System (excluding one mac per port)    : 1
Max Addresses limit in System (excluding one mac per port) : 3072
```

```
Switch# show running-config interface fastEthernet 5/1
Building configuration...

Current configuration : 344 bytes
!
interface FastEthernet5/1
 switchport mode access
 switchport voice vlan 3
 switchport port-security
 switchport port-security maximum 1 vlan voice
 switchport port-security maximum 1 vlan access
 switchport port-security mac-address sticky
 switchport port-security mac-address sticky 0000.0000.0001
 switchport port-security mac-address sticky 0000.0000.0004 vlan voice
end

Switch#
```

例 2 : 音声 VLAN およびデータ VLAN へのスティッキ MAC アドレスの設定

次に、インターフェイス FastEthernet 5/1 上で音声 VLAN およびデータ VLAN に対してスティッキ MAC アドレスを設定する例を示します。

```
Switch# configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
Switch(config)# interface fa5/1
Switch(config-if)# switchport mode access
Switch(config-if)# switchport port-security
Switch(config-if)# switchport port-security mac-address sticky 0000.0000.obob vlan voice
Switch(config-if)# switchport port-security mac-address sticky 0000.0000.0005 vlan access
Switch(config-if)# end
```



(注) ポートにトラフィックを送信すると、ポートにスティッキセキュアアドレスが設定されます。

```
Switch# show port-security address
      Secure Mac Address Table
-----
Vlan    Mac Address      Type                Ports    Remaining Age
-----  -
1       0000.0000.0001   SecureSticky        Fa5/1    -
1       0000.0000.0002   SecureSticky        Fa5/1    -
1       0000.0000.0003   SecureSticky        Fa5/1    -
3       0000.0000.0004   SecureSticky        Fa5/1    -
1       0000.0000.0005   SecureSticky        Fa5/1    -
3       0000.0000.0b0b   SecureSticky        Fa5/1    -
-----
Total Addresses in System (excluding one mac per port)    : 5
Max Addresses limit in System (excluding one mac per port) : 3072

Switch# show running-config interface fastEthernet 5/1
Building configuration...

Current configuration : 344 bytes
!
interface FastEthernet5/1
 switchport mode access
 switchport voice vlan 3
 switchport port-security
 switchport port-security maximum 5 vlan voice
 switchport port-security mac-address sticky
 switchport port-security mac-address sticky 0000.0000.0001
 switchport port-security mac-address sticky 0000.0000.0002
 switchport port-security mac-address sticky 0000.0000.0003
 switchport port-security mac-address sticky 0000.0000.0004 vlan voice
 switchport port-security mac-address sticky 0000.0000.0005
 switchport port-security mac-address sticky 0000.0000.0b0b vlan voice
end

Switch#
```

音声ポートセキュリティの注意事項および制約事項

音声ポートに実装されたポートセキュリティの動作は、アクセスポート上のポートセキュリティと同じです。

- 音声ポートにスティッキポートセキュリティを設定できます。音声ポートのスティッキポートセキュリティがイネーブルの場合、データ VLAN および音声 VLAN 上でセキュアなアドレスはスティッキアドレスとしてセキュアです。
- 最大セキュアアドレスは VLAN 単位で設定できます。最大数は、データ VLAN または音声 VLAN のいずれかに設定できます。また、アクセスポートの場合と同様、ポート単位でも設定できます。
- ポートセキュリティ MAC アドレスは、データ VLAN または音声 VLAN 上で VLAN 単位で設定できます。
- Cisco IOS リリース 12.2(31)SG よりも前のリリースでは、IP Phone と PC をサポートするために 3 つの MAC アドレスが最大パラメータとして必要でした。Cisco IOS リリース 12.2(31)SG 以降のリリースでは、最大数パラメータは 2 (IP Phone と PC に 1 つずつ) に設定する必要があります。

ポートセキュリティ設定の表示

show port-security コマンドを使用すると、インターフェイスまたはスイッチのポートセキュリティ設定が表示されます。

トラフィック制御情報を表示するには、次の作業を 1 つまたは複数行います。

コマンド	目的
Switch# show interface status err-disable	errdisable となったインターフェイスを、ディセーブルの理由とともに表示します。
Switch# show port-security [interface <i>interface_id</i> interface <i>port_channel port_channel_number</i>]	スイッチまたは指定したインターフェイスのポートセキュリティ設定を表示します。表示される内容は、各インターフェイスで許容される最大セキュア MAC アドレス数、インターフェイスのセキュア MAC アドレス数、発生したセキュリティ違反数、および違反モードです。 ポートチャネル論理インターフェイスを指定できます。
Switch# show port-security [interface <i>interface_id</i> interface <i>port_channel port_channel_number</i>] address	すべてのスイッチインターフェイスまたは指定したインターフェイスに設定されたすべてのセキュア MAC アドレス、および各アドレスのエージング情報を表示します。
Switch# show port-security [interface <i>interface_id</i> interface <i>port_channel port_channel_number</i>] vlan <i>vlan_list</i>	特定の VLAN リストおよび特定のインターフェイス上で、許容される最大セキュア MAC アドレス数および現在のセキュア MAC アドレス数を表示します。
Switch# show port-security [interface <i>interface_id</i> interface <i>port_channel port_channel_number</i>] [address [vlan <i>vlan_list</i>]]	特定の VLAN リストおよび特定のインターフェイスで設定されたすべてのセキュア MAC アドレスを表示します。

例

ここでは、次の例を示します。

- 「例 1 : スイッチ全体のセキュリティ設定の表示」 (P.33-28)
- 「例 2 : インターフェイスのセキュリティ設定の表示」 (P.33-28)
- 「例 3 : スイッチ全体のすべてのセキュア アドレスの表示」 (P.33-28)
- 「例 4 : インターフェイス上の最大 MAC アドレス数の表示」 (P.33-29)
- 「例 5 : VLAN 範囲に対するインターフェイス上のセキュリティ設定の表示」 (P.33-29)
- 「例 6 : インターフェイスのセキュア MAC アドレスおよびエージング情報の表示」 (P.33-29)
- 「例 7 : インターフェイスの VLAN 範囲でのセキュア MAC アドレスの表示」 (P.33-30)

例 1：スイッチ全体のセキュリティ設定の表示

次に、スイッチ全体のポートセキュリティの設定を表示する例を示します。

```
Switch# show port-security
Secure Port  MaxSecureAddr  CurrentAddr  SecurityViolation  Security Action
              (Count)           (Count)      (Count)
-----
    Fa3/1             2             2             0             Restrict
    Fa3/2             2             2             0             Restrict
    Fa3/3             2             2             0             Shutdown
    Fa3/4             2             2             0             Shutdown
    Fa3/5             2             2             0             Shutdown
    Fa3/6             2             2             0             Shutdown
    Fa3/7             2             2             0             Shutdown
    Fa3/8             2             2             0             Shutdown
    Fa3/10            1             0             0             Shutdown
    Fa3/11            1             0             0             Shutdown
    Fa3/12            1             0             0             Restrict
    Fa3/13            1             0             0             Shutdown
    Fa3/14            1             0             0             Shutdown
    Fa3/15            1             0             0             Shutdown
    Fa3/16            1             0             0             Shutdown
    Po2               3             0             0             Shutdown
-----
Total Addresses in System (excluding one mac per port)  :8
Max Addresses limit in System (excluding one mac per port) :3072
Global SNMP trap control for port-security             :20 (traps per second)
```

例 2：インターフェイスのセキュリティ設定の表示

次に、インターフェイス FastEthernet 5/1 のポートセキュリティの設定を表示する例を示します。

```
Switch# show port-security interface fastethernet 5/1
Port Security           : Enabled
Port Status             : Secure-up
Violation Mode          : Shutdown
Aging Time              : 0 mins
Aging Type               : Absolute
SecureStatic Address Aging : Disabled
Maximum MAC Addresses   : 1
Total MAC Addresses     : 1
Configured MAC Addresses : 0
Sticky MAC Addresses    : 1
Last Source Address:Vlan : 0000.0001.001a:1
Security Violation Count : 0
```

例 3：スイッチ全体のすべてのセキュアアドレスの表示

次に、スイッチのすべてのインターフェイスで設定されたすべてのセキュア MAC アドレスを表示する例を示します。

```
Switch# show port-security address
Secure Mac Address Table
-----
Vlan    Mac Address      Type                Ports    Remaining Age
-----
1       0000.0001.0000   SecureConfigured    Fa3/1    15 (I)
1       0000.0001.0001   SecureConfigured    Fa3/1    14 (I)
1       0000.0001.0100   SecureConfigured    Fa3/2    -
1       0000.0001.0101   SecureConfigured    Fa3/2    -
1       0000.0001.0200   SecureConfigured    Fa3/3    -
```

```

1 0000.0001.0201 SecureConfigured Fa3/3 -
1 0000.0001.0300 SecureConfigured Fa3/4 -
1 0000.0001.0301 SecureConfigured Fa3/4 -
1 0000.0001.1000 SecureDynamic Fa3/5 -
1 0000.0001.1001 SecureDynamic Fa3/5 -
1 0000.0001.1100 SecureDynamic Fa3/6 -
1 0000.0001.1101 SecureDynamic Fa3/6 -
1 0000.0001.1200 SecureSticky Fa3/7 -
1 0000.0001.1201 SecureSticky Fa3/7 -
1 0000.0001.1300 SecureSticky Fa3/8 -
1 0000.0001.1301 SecureSticky Fa3/8 -
1 0000.0001.2000 SecureSticky Po2 -

```

```

-----
Total Addresses in System (excluding one mac per port) :8
Max Addresses limit in System (excluding one mac per port) :3072

```

例 4 : インターフェイス上の最大 MAC アドレス数の表示

次に、インターフェイス GigabitEthernet 1/1 上で許容される最大セキュア MAC アドレス数および現在のセキュア MAC アドレス数を表示する例を示します。

```

Switch# show port-security interface g1/1 vlan
Default maximum: 22
VLAN Maximum Current
2 22 3
3 22 3
4 22 3
5 22 1
6 22 2

```

例 5 : VLAN 範囲に対するインターフェイス上のセキュリティ設定の表示

次に、VLAN 2 および VLAN 3 のインターフェイス GigabitEthernet 1/1 上のポートセキュリティの設定を表示する例を示します。

```

Switch# show port-security interface g1/1 vlan 2-3
Default maximum: 22
VLAN Maximum Current
2 22 3
3 22 3

```

例 6 : インターフェイスのセキュア MAC アドレスおよびエージング情報の表示

次に、インターフェイス GigabitEthernet 1/1 上で設定されたすべてのセキュア MAC アドレスおよび各アドレスのエージング情報を表示する例を示します。

```

Switch# show port-security interface g1/1 address

```

```

Secure Mac Address Table
-----
Vlan Mac Address Type Ports Remaining Age (mins)
----
2 0001.0001.0001 SecureConfigured Gi1/1 -
2 0001.0001.0002 SecureSticky Gi1/1 -
2 0001.0001.0003 SecureSticky Gi1/1 -
3 0001.0001.0001 SecureConfigured Gi1/1 -
3 0001.0001.0002 SecureSticky Gi1/1 -
3 0001.0001.0003 SecureSticky Gi1/1 -
4 0001.0001.0001 SecureConfigured Gi1/1 -

```

```

4    0001.0001.0002    SecureSticky          Gi1/1    -
4    0001.0001.0003    SecureSticky          Gi1/1    -
5    0001.0001.0001    SecureConfigured     Gi1/1    -
6    0001.0001.0001    SecureConfigured     Gi1/1    -
6    0001.0001.0002    SecureConfigured     Gi1/1    -
-----

```

```
Total Addresses: 12
```

例 7 : インターフェイスの VLAN 範囲でのセキュア MAC アドレスの表示

次に、インターフェイス GigabitEthernet 1/1 の VLAN 2 および VLAN 3 上で設定されたすべてのセキュア MAC アドレスおよび各アドレスのエージング情報を表示する例を示します。

```
Switch# show port-security interface gi1/1 address vlan 2-3
```

```

Secure Mac Address Table
-----
Vlan    Mac Address          Type                Ports    Remaining Age (mins)
-----
2       0001.0001.0001      SecureConfigured    Gi1/1    -
2       0001.0001.0002      SecureSticky        Gi1/1    -
2       0001.0001.0003      SecureSticky        Gi1/1    -
3       0001.0001.0001      SecureConfigured    Gi1/1    -
3       0001.0001.0002      SecureSticky        Gi1/1    -
3       0001.0001.0003      SecureSticky        Gi1/1    -
-----

```

```
Total Addresses: 12
```

```
Switch#
```

他の機能/環境でのポートセキュリティの設定

ここでは、次の内容について説明します。

- 「DHCP および IP ソース ガード」 (P.33-30)
- 「802.1X 認証」 (P.33-31)
- 「ワイヤレス環境でのポートセキュリティの設定」 (P.33-31)
- 「レイヤ 2 EtherChannel でのポートセキュリティの設定」 (P.33-32)

DHCP および IP ソース ガード

DHCP および IP ソース ガードを使用してポートセキュリティを設定し、セキュアではない MAC アドレスによる IP スプーフィングを防ぐことができます。IP ソース ガードは次の 2 つのレベルの IP トラフィック フィルタリングをサポートします。

- 送信元 IP アドレス フィルタリング
- 送信元 IP および MAC アドレス フィルタリング

IP ソース ガードをソース IP および MAC アドレス フィルタリングで使用する場合、送信元 IP アドレスに基づいてトラフィックをフィルタリングする場合はプライベート ACL が、送信元 MAC アドレスに基づいてトラフィックをフィルタリングする場合はポートセキュリティが使用されます。このため、このモードではアクセス ポートのポートセキュリティをイネーブルにする必要があります。

両方の機能がイネーブルの場合の制約事項は次のとおりです。

- DHCP パケットは、ポートセキュリティのダイナミック学習の対象になりません。
- 複数の IP クライアントが 1 つのアクセス ポートに接続されている場合、ポートセキュリティでは各クライアントの送信元 IP アドレスと MAC アドレスを正確にバインディングすることはできません。

たとえば、クライアントのアクセス ポートが次の IP/MAC アドレスであるとして。

- クライアント 1 : MAC1 <---> IP1
- クライアント 2 : MAC2 <---> IP2

この場合、トラフィックの送信元 MAC アドレスと IP アドレス トラフィックの組み合わせが次のいずれでも許容されます。

- MAC1 <---> IP1、有効
- MAC2 <---> IP2、有効
- MAC1 <---> IP2、無効
- MAC2 <---> IP1、無効

送信元 IP/MAC アドレス バインディングが正しい IP トラフィックだけが許可され、ポートセキュリティはこのトラフィックの MAC アドレスをダイナミックに学習します。バインディングされていない送信元アドレスの IP トラフィックは、ポートセキュリティによって無効なパケットとして処理され、ドロップされます。DoS 攻撃（サービス拒絶攻撃）を防ぐには、無効な送信元 MAC アドレスに対してポートセキュリティ レート制限を設定する必要があります。

802.1X 認証

MAC スプーフィングを防ぐために、802.1X 認証を使用したポートセキュリティを設定できます。802.1X は、通常の VLAN トランクおよびプライベート VLAN トランクではサポートされません。アクセス ポート、および PVLAN ホストまたは混合モード ポートでは、ポートセキュリティと 802.1X を同時に設定できます。両方とも設定する場合、ホストが 802.1X 認証されたあとでポートセキュリティによってホストの MAC アドレスをセキュアにする必要があります。802.1X とポートセキュリティの両方がホストを承認する必要があります。一方がホストを認証しない場合、セキュリティ違反がトリガーされます。セキュリティ違反の種類は、ポートを拒否する機能がどちらであるかによって異なります。ホストが 802.1X では許可されても（たとえばポートがマルチ ホスト モードであるため）ポートセキュリティでは許可されない場合、ポートセキュリティ違反アクションがトリガーされます。ホストがポートセキュリティでは許可されても 802.1X では拒否される場合（たとえば、ホストがシングル ホスト モード ポートでは未許可であるため）、802.1X セキュリティ違反アクションがトリガーされます。



(注) 802.1X、ポートセキュリティ、および VVID は、すべて同じポートに設定できます。

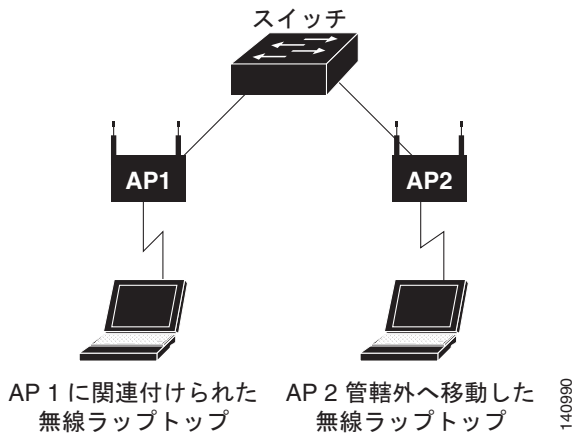
802.1X とポートセキュリティの相互作用の詳細については、「[ポートセキュリティを使用した 802.1X 認証の利用](#)」(P.32-14) を参照してください。

ワイヤレス環境でのポートセキュリティの設定

アクセス ポイントをセキュア ポートに接続する場合、ユーザのスタティック MAC アドレスを設定しないでください。MAC アドレスは 1 つのアクセス ポイントから別のアクセス ポイントに移動することがあり、両方のアクセス ポイントが同じスイッチに接続されるとセキュリティ違反になります。

図 33-3 に、ワイヤレス環境でのポートセキュリティの代表的なトポロジを示します。

図 33-3 ワイヤレス環境でのポートセキュリティ



レイヤ 2 EtherChannel でのポートセキュリティの設定

ポートセキュリティは、トランクモードまたはアクセスモードのいずれかの EtherChannel でイネーブルにできます（設定手順については、「アクセスポート上のポートセキュリティ」(P.33-7) および「トランクポートのポートセキュリティ」(P.33-16) を参照してください）。トランキングモードで設定するときは、MAC アドレスの制限が、VLAN 単位でポートチャンネル全体に適用されます。

一般的に、次の点に注意してください。

- レイヤ 2 EtherChannel でのポートセキュリティはアクセスモードまたはトランクモード上でだけ有効で、物理メンバーポートでの設定からは独立しています。
- 少なくともメンバーポートが 1 つセキュアであれば、チャンネルインターフェイスのポートセキュリティはディセーブルにできず、CLI によって拒否されます。
- セキュアポートは非セキュア EtherChannel に加入できません。CLI によって拒否されます。
- EtherChannel でのポートセキュリティは、PAgP モードと LACP モードの両方でサポートされています。レイヤ 3 EtherChannel には適用されません。

ポートセキュリティの注意事項および制約事項

ポートセキュリティの設定時には、次の注意事項に従ってください。

- セキュアポートを Switched Port Analyzer (SPAN; スイッチドポートアナライザ) の宛先ポートにすることはできません。
- インターフェイスのセキュアポートおよびスタティック MAC アドレス設定は、相互に排他的です。
- インターフェイスの最大セキュアアドレス値を入力する際に新しい値が以前の値より大きい場合、新しい値は以前に設定された値を上書きします。新規の値が前回の値より小さくて、インターフェイスで設定されたセキュアアドレス数が新規の値を超えた場合、コマンドが拒否されます。
- トランクポートでトランクポートセキュリティを設定しているときは、プロトコルパケット (CDP や BPDU) を考慮する必要はありません。これらは学習されることも、セキュアにされることもありません。

- スティックセキュア MAC アドレスのポートセキュリティ エージングをイネーブルにすることはできません。
- ポートセキュリティを使用して MAC スプーフィングを制限するには、802.1X 認証をイネーブルにする必要があります。
- ダイナミック ポートにはポートセキュリティを設定できません。ポートセキュリティをイネーブルにする前にモードをアクセスに変更する必要があります。
- EtherChannel のポートセキュリティがイネーブルの場合、802.1X はイネーブルにすることはできません。
- セキュア EtherChannel は PVLAN モードでは動作しません。

